

令和4年度第2回柳井市地域公共交通会議 議事録要旨

日 時：令和5年1月10日（火）10：00～11：30

場 所：柳井市役所3階大会議室

出席者：井原健太郎、藤井崇、笹木徹信、崎原孝就、守田達夫、沖永佳則、田中一美、児玉良弘、鈴木喜義、堀内洋、中田達生、山田敏行、小野理、笠松英明、土屋哲郎、榊原弘之（会長）、山口亮、切戸泰、渡邊昭博、徳武伸幸、蔦真、末廣和孝、新宅賢悟

欠席者：河村良太郎（委任状提出）、坂本和雄、鈴木進、山近久枝、岡原文隆、三浦道人

事務局：出相貴裕（経済部次長）、樽田哲郎（商工観光課長）、地久里真人（商工観光課主査）、南寛之（商工観光課主査）

●開会

●市長あいさつ

日積地区、大島地区の予約制乗合タクシーが順調に利用者を伸ばしている。また昨年10月からは伊陸地区と阿月地区で新たに予約制乗合タクシーが始まった。こちらも順調なスタートを切っている。このような取組が出来ているのも各地区で熱心にこの事業の周知を含め、お力を頂いている方々のおかげということについて深く感謝したい。

昨年末、広島でJR様と中国5県の市長会の代表による協議の場があった。JRのローカル線の採算をどうしていくかという課題がある中で、地元自治体、さらに国も含めてしっかり議論していこうという会議であった。人口減、少子化について国は異次元の対策を行う。柳井市もそれらに係る様々な取組みを最優先でやっていきたい。高齢化の中でも公共交通をどう持続させていくかという大きな目標に向かっての活発な議論をしていただきたい。

お出かけサポート事業については非常にありがたいというお言葉をいただいている。予約制乗合タクシー、お出かけサポート事業、そこからのJRでの移動も含め、色々な課題がある中で、全体的に、または局所的にどのような課題があるかも議論いただき、より良い制度を求めていきたい。

●会長あいさつ

柳井市の周辺町の話を知ると、柳井市に置かれている医療機関、公共施設等は柳井市だけでなく広域圏にとって重要な役割を果たしているということを感じ取る。柳井駅を中心に柳井市の公共交通の利便性を維持していくことは、柳井の皆さんのためでもあるが、この地域全体のためでもある。

本日の議題は柳井市の公共交通を考えるという意味でどれも重要な議題となるので、ご審議の程よろしくお願ひしたい。

●出席状況報告

事務局

委員数25名のうち、出席者19名、委任状提出者1名、欠席者5名。本会議設置要綱第6条の規定により本会議は成立していることを報告する。

●（1）令和4年度地域公共交通維持改善事業に係る事業評価

事務局から資料を基に説明

委員 A

⑤の目標・効果達成状況で、昨年の会議での評価には運行回数が含まれていたが、この度はそれを含まないことは特に問題ないか。

事務局

よりわかりやすい指標として利用人数のみの報告とした。報告の内容に特に問題はない。

会長

以前提出した計画に利用人数を評価の指標として記載しているので、それを達成できたかということはこの度報告することになる。この評価内容を公共交通会議として認めるということによろしいか。

委員

異議なし

会長

皆さんのご賛同をいただいたので、こちらの議事について承認する。

●（2）予約制乗合タクシーの利用状況について

事務局より資料を基に説明

会長

かなり多くの方にご利用いただいているという印象で順調だと認識する。伊陸と阿月についても立ち上がりとしてはかなり多くの方に認知され利用されていると思う。

地域内の交通については、地域内での需要喚起が重要で、現時点ではそれがうまくいっているため、このような結果につながっている。引き続き PR をお願いしたい。事務局においても各地域の支援をお願いしたい。

●（3）柳井市地域公共交通網形成計画の進捗状況について

事務局より資料を基に説明

委員 A

路線バスの維持に係る市民一人当たりの財政支出については予約制乗合タクシーへの財政支出も併せて記載したほうが良いのではないか。

事務局

改めてお示ししたい。

会長

市全体としての財政支出で考えるということは取り入れるべき。一般論ではバスから乗合タクシーに変わることによって財政支出は少なくなる。コロナ前に立てた目標値だと達成することが難しいというケースも多く、各市町において目標指標、目標値の設定は苦慮している。

委員 B

平郡航路の輸送実績の目標値は 25,000 人となっているが、特に平郡は高齢化と人口減少が非常に進んでいるので、目標に近づくには本土から平郡に行くようなツアーを増やすしかない。

島は高齢化が進んでおり中々お手伝いも難しい状況のため、市が積極的に色々な企画を考えて、市が行うというようなイベントにしないと難しい。

事務局

令和 2 年 1 月以降、コロナの感染拡大もあり、本土側から人を呼ぶことができないという状況が長く続いた。

コロナへの考え方も変わってきているので、今後は市と平郡の方々と市観光協会と共に平郡航路を利用していただいて平郡の魅力を伝える取り組みをしていきたい。

会長

利用喚起がし難い状況がこの数年続いた。島の方の気持ちもあるので中々難しい問題。交流人口の創出は大切なことで、交通の話で閉じるのではなくて地域振興や観光とも関係してくる。次年度以降そういった取組みも考えていただきたい。

委員 C

大島地区の登録者数は 700 名近くある中で実利用者数は 1 割強で、割合的にはまだまだ少ない状況。なぜ利用していないかという質問の中で、大きく 3 つの意見をいただいた。一つ目は便数が少ない。2 番目は到着時間が読めない。3 番目は予約が面倒。一番目は各関係者にご協力いただき 5 便から 6 便に増便した。この 10 月から変更している。しかし利用の仕方をみると片道だけの利用が多く、利用者の方々からは、帰りの便のちょうどいい時間がないというご意見もいただいている。

あとの 2 つは予約制である以上、やむを得ない点もあるが、何か出来ることがあるのではないかと考えている。

この 10 月から 4 つの地区で乗合タクシーが運行することになったが、各地域の知恵を出し合いながらいいものにしていけたらと考えているので、そのような協議の場を設けていただけたらという提案もさせていただきたい。

会長

柳井市の予約制乗合タクシーの体制の良いところは、地区社協が主体で運営をしているので地域の方が色々なご意見を伝えやすいという点だと思う。柳井市の強みを生かして地域とのコミュニケーションを大事にしていきたい

今は利用しないが自分が利用するときまで乗合タクシーが続いていて欲しいという意見に対して私がよく申し上げることは、今のうちに少しでも利用してほしいということ。ある程度持続的に利用がないと制度を維持するのは難しいので、今のうちから利用していただきたい。

委員 C

最近ではスマホで位置情報を把握することができる。例えば、スマホでタクシーの位置を把握するというアイデアを思いつくが、予算など色々な点での問題点はあるかと思う。出来ないということは簡単だが、出来ることを考えて紡いでいくようなことをやっていきたい。

会長

ネットを使ったシステムの構築についても、今後は必要となってくるかもしれないので、事務局の方で研究することも必要と思う。

市長

へぐりの運行実績の話でいうと、外部の方の利用は避けてほしいということで、ちがうルートで婚活イベントを開催したり、また、チャーター船を用意して2年間で延べ200人が平郡島に渡航し海岸清掃を行っている。この取り組みは企業版ふるさと納税で(株)サンラインさんからの寄付を活用している。このような活動を来年度からへぐりに乗ってできれば、運行実績となる。少しずつコロナ渦の状況を戻しながら、新たなイベントも開催しているということをご紹介させていただく。

●閉会